

フォレストニュース

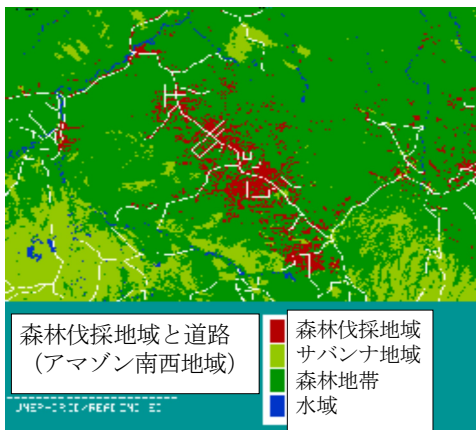
育てよう、世界に森をと頑張っている私たちですが、以下のようなニュースがブラジルから飛び込んできました。

終わらない違法森林伐採

「アマゾンの森林乱伐激化
昨年五か月で3,233平方km
宇宙研究院（Inpe）調査によると、昨年8～12月におけるアマゾンの森林伐採面積は3,233平方km。伐採は雨季のため、通常は伐採の少ない11、12月に集中している。

同院のジウベルト・カーマラ総裁は、いままで見たことのない増大振り語る。

マリーナ・シウヴァ・ブラジル環境相は、荒らされた面積はもっと広く7,000平方km（東京都の3倍以上・東京都の面積は2,108平方km）に達するのでは、と見る。大豆栽培や放牧地造成が進み、併せて銑鉄業への木炭供給が原因。



主としてホンドーニア、パラ、マツト・グロッソ三州に多い。

マツト・グロッソ州のルイス・ダウデガン環境長官も森林乱伐面積の急増を認める。

同報に接したルーラ・ブラジル大統領は、24日に緊急会議を開催すると決定した。」（2008年1月2

5日付、在米・三石昭二フォレスト通信員)

日本の温暖化防止は

2050年の

地球の呼吸！？（経済産業大臣甘利明)

いま地球全体で排出される温室効果ガスの量が、地球全体の森林などが吸収できる量の約2倍になっていることをご存知ですか？日本は、これ以上温暖化が進まないよう、2

050年に地球全体で排出する温室効果ガスを今の半分にし

よう！と世界に呼びかけています。その年排出される温室効果ガスを森林などがほぼ吸収してくれるようにするのは、

第一歩として、2008年から12年まで各国が温室効果ガスを減らすことを約束した「京都議定書」の目標達成が必要です。日本は国際的に基準年度（CO2は1990年度）に比べて6%削減を約束しており、産業界では自ら高い削減目標を掲げてがんばっています。

でも、この京都議定書で削減義務を負う国の排出量は世界の3割に過ぎないのです。地球全体で半分にするには、やはり残りの7割の国の削減努力も不可欠です。今年7月に開かれる「洞爺湖サミット」では、議長国である日本は、先進国も途上国も全員が参加する

枠組みづくりを目指します。

そして、今後枠組みに入る国には、日本のお家芸「省エネ技術」を移転していきます。燃料代も電気代も安くなる、それで経済成長もするという事は、どの国にとっても望ましいことです。さらに中長期的には、CO2排出がゼロの石炭火力発電や、キロワットアワーあたり40円以上する太陽光発電を10円以下にするなどの革新的技術を開発します。こうした取組を進め、2050年半減という目標を実現していきます。（福田内閣メールマガジン21号から抜粋）

私達の活動

世界の広い面積に、ジャトロファやニームの木が植えられるようになってきました。また私たちが植林した木々も成長を続けています。厳しい環境のために見捨て



広い土地に国連も推奨する成長の早い木々を植林

てられたような土地でも、土壌改良によって素晴らしい、森林がつくられています。（一例として、ミミズが増えてくるので分かります）また、多くの方々から寄せられた、支援で貧しく職のなかった、南米のインディヒナの人にも働く場が提供されました。こどもたちにも教育の場と教育を受ける環境が提供されています。

樹種の改良や土壌を改良し続けることによって、地球の温暖化を防ぐ、植林活動のモデルがつけられています。あなたも私たちとともに、世界に植林に出かけてみませんか。

NPO地球の緑を守る会

武蔵野市境南町2-1-22和田ビル2階B

電話0422-39-3324

ファックス0422-39-3344